

令和3年度野生鳥獣被害に係る集落アンケートの結果について

1 調査の概要

県内における野生鳥獣被害に係る「住民の実感」を把握するため、農業被害の程度や実施した対策等について本県独自のアンケートを実施。

【調査期間】令和3年11月～令和4年1月（対象期間：令和3年1～12月）

【調査数】366集落

2 主な状況 ※（ ）は令和2年度

（1）農業被害の程度（「深刻」「大きい」の割合）

○ イノシシ：47%（31%）

○ ニホンザル：34%（26%）

○ ニホンジカ：32%（26%）

※被害程度を「深刻」「大きい」「軽微」「ない」の4段階で回答

（2）その他の被害

○ イノシシ

・家庭菜園の被害「あり」：53%（39%）

・畦や石垣の被害「深刻」「大きい」：34%（23%）

○ ニホンザル

・家庭菜園の被害「あり」：46%（39%）

・人への威嚇「あり」：11%（9%）

○ ニホンジカ

・家庭菜園の被害「あり」：39%（31%）

・樹皮の被害「深刻」「大きい」：21%（15%）

※「家庭菜園被害」「人への威嚇」は「あり」「なし」で、「畦や石垣」「樹皮」の被害は「深刻」「大きい」「軽微」「ない」で回答

（3）実施した対策（「効果あり」の割合）

○ 防護柵 イノシシ：58%（64%）

ニホンザル：30%（28%）

ニホンジカ：62%（65%）

○ 捕獲 イノシシ：58%（41%）

ニホンザル：45%（21%）

ニホンジカ：63%（60%）

※「効果あり」「効果なし」「不明」で回答

3 今後の方針

獣種ごとに定めた「適正管理計画（令和4～8年度）」に基づき、市町村と連携のもと、地域に応じた効果的な「侵入防止柵の導入」や「IoT機器を活用した捕獲」など、集落ぐるみの被害防止活動をより一層強化する。